



高総発第163号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長殿

宮崎県高千穂町
町長 内倉信吾



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付国土交通省道路局長名国道企第114号によりご依頼のありました件につきまして下記の通り提出致します。

記

九州山地の心臓部として位置づけが高い高千穂町は、神話と伝説、名勝天然記念物の高千穂峡（五ヶ瀬川渓谷）などを有し、年間100万人以上の観光客を迎える宮崎県内有数の観光地であるが、少子、高齢化等による過疎化が進行している地域でもある。

地域の活性化、産業、観光等の振興に不可欠な道路交通網の中で、延岡市と熊本県宇城市松橋町（旧松橋町）を結ぶ国道218号と本町と福岡県久留米市とを結ぶ国道325号の2路線は経済、文化、観光振興及び地域住民の生活に欠かせない重要な幹線道路であり、県道は主要地方道緒方・高千穂線を含め9路線約88km、更に地域住民の生活改善に重要な役割を果たしている町道は313路線、約383kmある。

しかしながら、道路状況は全ての五ヶ瀬川水系の大小の河川が深い渓谷をなしていることから、高低差や起伏の激しい地形の中に位置し地形の一体化が阻まれて道路網の整備など、行政投資も多額で改良率は、宮崎県道路保全課の道路施設現況調書によると、平成18年4月1日現在で国道218号が100%、325号98.9%（5.5m未満を除く）であるが県道は24.6%（9路線・5.5m未満を除く）、町道が20.8%（5m未満を含む）となっており、整備率は低く、豪雨等の災害にも脆弱である。

更に、地域経済の活性化はもとより、救急医療、災害時の代替ルート、国土保全機能維持の為の定住促進に大きく寄与し、地域の自立ある振興とともに、国土の均衡ある発展に欠くことのできない社会基盤である高規格幹線道路網の整備は大きく立ち遅れており、高規格幹線道路通過地域とは、大きな格差が生じている。

この様なことから、安全で安心して地域を継承していく為の環境を構築するためにも、地域の産業、経済、観光、文化等の一体的発展と地域の活性化、更には大規模災害時等の危機管理対策にも貢献するであろう九州横断道延岡線の完成は緊急且つ重要な課題となっており早期に整備されるようお願いする。

根幹をなす九州横断道路延岡線の整備が促進されることで、既に全線開通している九州縦貫道、九州横断自動車道長崎・大分線、整備が進められている東九州自動車道との循環型交通ネットワークが形成され広域的連携が図られることが期待できることから、地方での生活、経済活動、環境保全など、地方を支える住民や道路利用者にとって安全で安心して活用できる国道の大規模バイパスによる直線化や、整備が遅れている県道の改良を進めてもらおうとともに、国、県など関係機関のご協力をいただきながら町道の整備を促進し、地域の活性化に向けた施策を展開して行きたいと考えている。

地形的条件が厳しい地域での整備は、投資効果が果たして期待できるのかという経済比較のみの判断では、都市と地方の格差は益々開く事が懸念されるので、地方に住む人々の食糧供給、森林を守り育てることでの水源涵養、国土保全といった、公益性の高い活動が都市部に住む人々にとっても大きく貢献していることを評価し、都市と地方が共存共栄することが国民の生活安定、国家の安定的発展に繋がるものと認識していただき計画の策定をお願いしたい。

更に、弱者や環境への配慮をしつつ、工法の見直し、新技術の開発を進めコスト縮減を図り、そして国民参加へ向けた情報公開などの施策を充実し効率的な整備を行い早期に効果を発現させるとともに、交通安全に注意し、歩道などの道路施設の活用を容易にすることで住民参加を促し住民と道路との良好な関係を保つことができるような道路管理のあり方について検討をお願いしたい。

以上